日本大学通信教育部校友会

東京都支部

大江戸通信

第84号　平成27年7月1日発行

東京都支部校友会／広報委員会編集部　連絡先：080-5032-1467　発行責任者：金子栄輔
本部校友会事務局：東京都千代田区九段南4-8-28　Tel/Fax：03-3234-5858　編集責任者：髙木典章

自主創造

リレー随想

—学ぶこと　生きること—

東京都支部　内藤セツコ

私は心の底で「私は基礎教育をきちんと受けないままに生きてきた」と言う負い目が消えずにずっと残っていた。小学校時代はずっと戦争で、村の若い男の人たちは兵隊に行った。

小学生も、兵隊に行った人の農家の手伝いか、たくさんの重い荷物(汽車の枕木等)を山から背負って運ぶなどが多かった。「今日は勉強するっぺ」と数学の教科書など10頁～20頁を一度にめくり、今日はここから……と始まるのだ。丸められたページは二度と教わることはなく卒業になった。とにかく早く一人前にして働くことが必要だったのだろう。成績が悪く落第する人はいなかった。理科なども国語の漢字もキチンと教わることはなかった。男の兄弟がいなかったので、家からは誰も兵隊になれない。従軍看護婦になってお国の為に尽くしたいと思っていた。そんな中、国立病院で100名の募集があった。私たちのクラスは四期生。小さい人大きい人とバラバラだった。上級生の三期生は40名、優秀な人が揃っていた。昭和20年、戦争が終わり、半分のクラスメートは家に帰って行った。卒業して看護婦と保健婦の資格を取った。毎日お腹が空いて豆を煎って食べた。卒業すると保健所で働くようになったが、田舎の母校で「養護教師になってきて欲しい」と言われ、講習会を受け学校に就職した。が、ようやく仕事にも寝れてきた頃、国家試験が始まり、国家試験を通らなければ今は良いが他所に勤務出来なくなる、という風評が入った。このまま此処にいては勉強も出来ないし、試験を受けることも出来ないと家族や医師や学校の反対を押し切り上京した。周りはみんな中学・高校と卒業して看護学校に入ってくる。看護大学も出来るようになっていた。国の教育方針が次々と変わる。上京して大学病院に勤め、病院では昼休みに医師たちが交代で講義して下さり、何とか第２回の国家試験に合格することができた。医学用語はドイツ語だったのが英語も使われるようになった。英語の学校に行くため駅で定期券購入の手続きをしようとして書き込むとき、「日暮里」と言う字が思い出せなかった。駅員の人に「日本語も解らないで何が英語か」と吐き捨てるように言われた。職場を学校の近くと思って探し、銀座へ行った。もうそこは勉強どころではなく仕事が忙しく夜も昼も走り回っていた。何とかして勉強も出来る職場と思って探したが、どこもそう簡単ではなかった。いろいろ考えさせられて見つけた職場、それが墨田区にあったキリスト教の病院だった。職場は大好きな子供たちの小児科だった。毎日楽しく夢中だった。昭和28年時代、お産が多く未熟児やいろいろ珍しい疾患も多く、学ぶことが沢山あり、外国の方も勉強に来ていた。何年か夢中に過ぎ、家族を持ち子供も出来たが、幸い夫の両親が優しく子供の面倒を見てくれた。仕事は大好きな子供たちの職場も続けることができた。人生のなかで一番平穏で幸せだったひととき……。

夫が突然死んだ。夜勤中に電話で呼ばれ、仲間に交代を頼んで急ぎ返ったが、往診の医師は待ちかねたように「10分前でした」と言って帰った。もう職場は好きとか嫌いとかではなく必死で働いた。そんな時院長は責任者の役を与えてくれた。ロクに学校もキチンと出ていないのに、後輩の指導もしなければならない。一生仕事で生きようと覚悟していた時、あらためて勉強したいと思った。幸い子供は保育所に行けるようになり、あとは義母が見てくれた。

近くに都立の定時制高校があった。相談したら「編入試験もあるから受けてみたら」と教えて下さった。仕事が終わると学校へ飛んで行った。友達も出来クラスメートは私より15歳も若かった。先生も若かっ

もくじ

●リレー随想……1～2
●今年は戦後70年、平和を考える
●ローカルだより
●新表彰規定……2～3
●東京都支部・定期総会報告……4
●平成27年度・本部総会スケッチ……5
●暑中お見舞い申し上げます。……6～7
●関東ブロック総会・埼玉県大会概要決まる
●全国ブロック総会・開催日程
●編集後記……8

本年度全国総会で『本部表彰』を受賞する東京都支部・内藤セツコさん

た。修学旅行にも行き「あゝ勉強している」と思った。

夜学に入る時、勤務場所に迷惑をかけては困ると思い、院長にその旨を話し「交代していただけないか」と頼んでみた。院長は「やるだけやってみなさい。駄目だったらその時考えればいい」とおっしゃって下さり、そのまま仕事と学校を続けることが出来た。

卒業すると、また大学進学の夢を持つようになった。通学は無理でも通信がある、と五ヵ所から案内書を取り寄せ調べてみた。たどり着いたのが日本大学通信教育部である。もう思い出せない位夢中で過ごした。卒業するまで　7年かかった。卒論をどうするかで迷った。好きな作家、もう少し知りたい他のこと、なかなか決められないでいた。事務局の方に相談したら「担当の藤田先生に相談してみたら」と言われた。厳しいけれどその方が良いのでは、と思い、先生のご住所を伺い、お電話をしてご自宅へ伺った。先生は「一番好きなことをやりなさい」、その一言だったが、私の迷いはスーッと遠のいた。

堀辰雄、好きでよく本を読んではいたが、研究とは思っていなかった。辰雄が子供の時代を過ごしたという牛島神社や三巡りさまなど、勤務場所からも近かったのですぐ行ってみた。また、軽井沢の奥さまには手紙でいろいろ聞いたり、自分の車で運転して行った。お墓も調べて行ってみた。丁度命日だったとかで、お花がいっぱい添えられていた。奥様にお目にかかり、書庫を案内して下さったり、最後を過ごした部屋なども見せて戴いた。いろいろお話を聞かせていただくことが出来てようやく卒業することが出来た。昭和49年、校友会に入れて戴いた。ほとんどの行事に参加した。旅行にも行った。外国にも地方にも行った。行く先々で地方の校友の方たちがいろいろ心配して下さった。どこも懐かしい想い出になっている。あの厳しく長かった日常は何だったのか、校友会で参加していると辛かった日々はスーッと消えて、楽しい思い出だけが浮かび上がってくる。

≪次回は肱岡堅一さんにバトンタッチします。≫

今年は戦後70年を迎える

70年間も続いた平和と戦時中の学徒出陣を考える

3年に行われた学徒出陣式の様子（大学史編纂課提供）

多くの国が第2次大戦以降も直接の戦争当事国となったりする中で、人口1億2800万人、ＧＤＰ4.8兆ドルの大国である日本が70年間も戦闘で一弾も発射せず、テロの犠牲以外には一人の戦死者も出してなく、平和を享受してきた国は世界196ヵ国の中でも極めて少ない。

今回の一面『リレー随想』では、内藤さんの戦中戦後の混乱期に勉学に取り組む厳しさ、辛さの中から明るく懸命に生きて来たことを『学ぶこと、生きること』の中で、熱く語っていただいている。そこで今回は校友の皆様と平和の意味を考えてみたいと思い、支部総会のときに「平和のメッセージ」をお願いしたが、期日までにご返事いただいたのは昭和41年卒の石川寿朗さんのみであったため、急きょ企画を表題のとおりに変更せざるを得なくなった。

そんななか「日本大学新聞1338号」で、1943年に行われた学徒出陣式の様子の写真が一面に大きく掲載されていた。記事によれば文理学部・法学部・予科・専門部・高等師範部計986人、及び経済学部約1500人、芸術学部では終戦翌年の火災で資料が焼失、残る法学部の調査を踏まえ、7月中旬をめどにすべての集計を終える予定だ、と記事は伝えている。そこで本誌はネットで当時の学徒出陣の写真と解説を基に、終戦から70年が経った現在、あの戦争における学徒出陣について調べてみた。

学徒出陣の実施

1943年（昭和18年）10月21日、東京都四谷区の明治神宮外苑競技場で「出陣学徒壮行会」が文部省主催、陸海軍省等の後援で実施された。「明治神宮外苑競技場」は、2020年の東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸの開催に向けて建て替え工事が始まった「新国立競技場」が建設される場所である。

秋の強い雨の中、観客席で見守る多くの人々の前で東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の各大学・専門学校からの出陣学徒（東京帝国大学以下計77校）の入場行進、宮城遙拝、開戦詔書の奉読、東條首相による訓辞、東京帝国大学文学部学生の答辞、海ゆかばの斉唱などが行われ、最後に競技場から宮城まで行進して出陣式を挙行したとされる。

出陣学徒は学校ごとに大隊を編成し、大隊名を記した小旗の付いた学校旗を掲げ、学生帽・学生服に巻脚絆をした姿で小銃を担い列した。

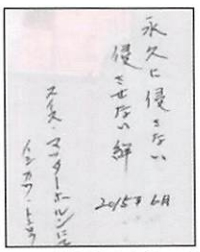
壮行会を終えた学生は、戦況が悪化する中、玉砕や沈没などによる全滅も起こった激戦地に配属されたが、慢性化した兵站・補給不足から生まれる栄養失調や疫病などで大量の戦死者を出した。1944年（昭和19年）末から1945年（昭和20年）8月15日の敗戦にかけて、戦局が悪化してくると特別攻撃隊に配属され戦死する学徒兵も多数現れた。

全国で学徒兵として出征した対象者の総数は公式の数字が

発表されておらず、大学や専門学校の資料も戦災や戦後の学制改革によって失われた例があるため、未だに不明な点が多い。出征者は約13万人という説もあるが推定の域を出ず、死者数に関してはその概数すら示す事が出来ないままである。当時は大学生の数は少なく、その多くが富裕層の出身であり、将来社会の支配層となる予定の男子であった大学生が「生等もとより生還を期せず」という言葉とともに戦場に向かった意味は大きく、日本国民全体に総力戦への覚悟を迫る象徴的出来事となった。

学徒兵は学歴を生かし、陸軍幹部候補生や海軍予備学生などを志願し、下士官以上の階級となった者が多く、日本軍が行った捕虜の虐待や処刑などの残虐行為の現場責任者として告発される例が生じた。ＢＣ級戦犯裁判で死刑が宣告され、帰還後に日本で、あるいは降伏した現地で命を落とす学徒兵もあったという。

このような戦中・戦後の死線をくぐり、日本に帰還した学徒兵は多くが元の学校に復学し、卒業した後は戦後日本の復興や発展の牽引役となった者も現れた。答辞を読んだ江橋慎四郎は後に東京大学教育学部教授や鹿屋体育大学学長になった。早稲田大学の竹下登、神戸商業大学の宇野宗佑、慶應義塾大学の塩川正十郎など政治家になった例も多い。竹下と宇野、それに明治大学専門部から村山富市の3人が、日本の内閣総理大臣になった学徒出陣経験者である。また、日本の統治時代の台湾に生まれ、後に中華民国総統になった李登輝も京都帝国大学在学中に学徒出陣している。その他、茶道裏千家の家元・千玄室は同志社大学在学中志願して特攻隊員となったが、出撃前に戦争が終結した。また、千の居た部隊で生き残ったのは2人だけで、もう1人が日本大学専門部芸術科から徴兵され、後に俳優になる西村晃だった、と記事にある。(写真はＩＮより転載しました)。



石川寿朗さんからの平和のメッセージ

ローカルだより

ローカル駅のおもてなし

島根県支部・支部長　坂本育穂

かつては東京で話し相手に「私は島根県の松江から来た」といっても分かる人は少なく、場所柄を説明するのに四苦八苦したものだが、近ごろは松江と言えば相手の口からオウム返しに「にしこりケイ」と言葉が返ってくるのにはこちらがびっくりだ。

実はこの松江、「国際文化観光」都市として奈良・京都と肩を並べる存在だ。

古都奈良・京都と共に松江が何故国際文化観光都市なのか詳らかではないが、古代出雲が神話の時代の中心地であったこと、世界に日本を紹介した小泉八雲の存在が理由かもしれない。

ところが、奈良・京都と並ぶ国際都市松江駅には未だに自動改札はなく、切符は今でも駅員に手渡しで、「ピッ」という電子音も聞かれない改札口である。乗る時は「有り難うございます」、降りるときは「有り難うございました」と駅員が挨拶と笑顔で送り迎えてくれるから、心の隙間に僅かだが触れあいが生ずる駅である。これはＪＲ西日本の台所事情なので何時までのことか判らないが、これが本当の「おもてなし」ではないだろうか。

本部役員会だより

『米寿』特別表彰制度、決まる。

本部『総務部』では、従来の表彰規定に加え本年度より『米寿』に該当する校友の表彰を審議し、下記の通り決定した。表彰規定運用の基準は次のとおりである。

(1)支部(本部)役員15年以上、かつ会費を納入済みの者。
(2)本部総会またはブロック総会に計4回以上出席し、貢献した者。
(3)当該年度の4月末日までに米寿『88歳』になった者。

表彰の時期……

その年度の本部総会またはブロック総会において表彰する。但し本年度(平成27年度)表彰対象者は、本部総会に間に合わないので、ブロック総会において表彰する。

●平成27年度対象者は昭和2年5月1日～3年4月末日生まれのものとする。但し、本年度の特例として、初年度は昭和1年5月1日～3年4月末日生まれのものとする。

●次年度(平成28年度)対象者

昭和3年5月1日～4年4月末日生まの者とし、以後はその年度で実施する。

●推薦者は支部長になっています。お心当たりの方、またはそのご友人よりご推薦ください。特例が認められるのは本年度のみで、本年度は9月8日の常任役員会が最終です。来年度からは1月に開催される三役会で審査されます。

☆☆☆　東京都支部校友会・平成 26 年度会費納入者のご紹介　☆☆☆

平成 26 年度の支部会費は下記の皆様方よりお支払いいただきました。東京都支部一同厚く御礼申し上げます。

【1口】荒井澄子・田口浩子・志方千都子・吉岡友子・土屋 豊・須田一彦・古川一夫・熊倉 誠・内 将博・望月 稔・岡野直行・斎藤永子・小西康則・荒船勇次郎・冨山 賢・井上 泰・松本なを美・小池康夫・平野栄子・林 輝代・小野寺みさの・村越 裕・打越賢一・島崎昭生・斎藤和子・清水千珠子・西郷和美・武田康人・入部和男・五十嵐登・高垣むつ子・眞船洋二・石田和弘・松尾智代美・新山貞一・小野陽子・永井忠宏・峯秀樹・打越賢一・高橋知昭・髙木典章・田中月美・鎌田富貴子・斎藤 寛・樋口治美・八馬朱代・父田翔一・酒井和子・佐久間博子・長嶋啓介・本多和子・早坂きみ子・鎮目陽子**【2口】**小野智恵子・福島惠子・松川正登・出川 昇・佐伯信應・内藤セツコ・蛯名 正・古畑喜美子・仁木孝子・荒川恒昭・壁谷公江・岡田伊知夫・大江良彦・黒坂和子・村田和義・平原隆志・吉武香代子・西川綾子・白戸忠志・玉井孝丸・榎本富男・嶋村典和・中村友香・野口 昭・野澤貞雄・水口 浩・宮澤三枝子・金 永姫・清田貞次・千葉太介・吉村立雄・森 逸男・吉村益吉・上野明子・牧田守弘・新津逸男・篠 博久・土田 修・成宮眞理子・佐戸美代子・桑原隆弘・平木 茂・榊原志津枝・武田祥二・大月邦夫・髙木智宏・近藤 裕・鈴木義彦**【3口】**富沢良光・碓井和夫・三井和子・飯田啓一・橋本アサ子・日高寛直・小原暁子・貝塚英雄**【4口】**石川寿朗・三上英子・熊本昭典**【5口】**野呂隆慶・鈴木孝司・田中瑛也・佐竹さち子・神津千恵美・新田園子・高山紀男**【6口以上】**肱岡堅一・川熊長子・金子栄輔・宮川美知子(平成27年3月31日現在、敬称略)

第48期 東京都支部・定期総会関係報告

東京都支部定期総会は去る4月24日、新装なった市ヶ谷の通信教育部1号館5階ミーティングルームで開催された。執行部より上程された第1号議案から第7号議案まで審議を行い、全て執行部提案通り承認された。

その後会場を校舎の向かい側にある『アルカディア会館』に移し、出席者とともに懇親を深めた。その席上で出席者より『大江戸通信』の中の名詞広告に話が及び、出席者全員より支部財政健全化のために必要だ、との意見を頂いた。会報はブロック総会において全国の交友に配布している。今後も皆様のご支援とご協力をお願いします。

[事業概況]

昨・平成26年9月は、日本大学新キャンパス計画に基づき、発祥の地である神田三崎町から市ヶ谷へと、長年親しまれた校舎が移転した。新校舎にはＩＣＴ機器を備え付けた最新の教育設備と今までの教育資産が合体し、新しい教育環境が整った。これに伴い通信教育部校友会事務局は校舎の隣にある日大会館8階に移転し、効率的な事務作業が進められる環境が整った。大学関係者に心より感謝申し上げる。東京都支部事務局では引っ越し移転により必要なものと不必要なものを仕分けし、整理整頓に努めた。

東京都支部では本年度も事業計画に則り、従前同様に『大江戸通信』の年2回発行を実行し、校友会活動の現状を報告した。会報の配布範囲を全国ブロック総会を通して全国支部に拡大するなど、広報活動の充実と会員の増強を図った。また、支部の財務内容強化のため、会報紙面上の有料名刺広告ページを常設するなどの策を講じた。広告には全国から有志の会員より広告の申込みを戴き感謝申し上げる。昨年度も関東ブロックを中心とした各支部との連携強化に力を入れ、通信教育部校友会・東京都支部では次の事業を行った。
(以下略)

≪収入の部≫ (単位：円)

科目	予算	決算	増減	摘要
会費収入	300,000	281,000	−19,000	会費納入会員122名
臨時会費収入	110,000	63,000	−47,000	総会、忘年会
本部補助収入	120,000	155,040	35,040	81号、82号、83号
広告料収入	140,000	105,000	−35,000	31名
寄付金収入	20,000	0	−20,000	該当なし
受取利息	80	68	−12	郵貯銀行利息
雑収入	10,000	0	−10,000	該当なし
小計	700,080	604,108	−95,972	
前期繰越金	252,417	252,417	0	繰越現金、郵貯銀行
合計	952,497	856,525	−95,972	

≪支出の部≫

科目	予算	決算	増減	摘要
臨時会費支出	140,000	86,520	−53,480	総会費、忘年会費
会議費	10,000	0	−10,000	該当なし
旅費交通費	10,000	0	−10,000	該当なし
事務消耗品費	10,000	2,586	−7,414	プリンター用紙他
通信費	15,000	941	−14,059	総会案内他
印刷・発送費	420,000	423,894	3,894	会報82・83号
諸雑費	10,000	21,200	11,200	クラブ活動助成金他
事務所移転費	30,000	0	−30,000	該当なし
小計	645,000	535,141	−09,859	
次期繰越金	307,497	321,384	13,887	現金,郵貯,振込、
合計	952,497	856,525	−95,972	

【事業計画】

東京都支部の運営を充実させるための最大の課題は、校友の加入増強と財政基盤の確立にある。財政基盤の拡充では支部会報「大江戸通信」による名刺広告の充実があげられる。当支部会員を始め、当支部以外からの会員にもご協力いただけるようになったことは大変喜ばしい限りである。支部としては広告効果を高めるため、全国ブロック総会を通して毎号全国の皆様にお目通しいただけるよう努力している。

新しく支部会費を納めていただく新規会員は多少増えているものの、一方で会員の病気や老齢化でやむなく退会される方々も増えてきた。会費収入では前年度より収入減となったが、広告料収入でこれを補うことができた。

本年度は研究会・サークル活動の多様化とオープン化、さらに各支部とのこれまで以上の連携強化などを目指し、魅力ある校友会活動の場を作っていきたい。これらを踏まえ当通信教育部校友会・東京都支部では、平成27年度事業計画を次の通りに定める。
(以下略)

≪収入の部≫ (単位：円)

科目	26年予算	27年予算	増減	摘要
会費収入	300,000	300,000	0	会費納入130名
臨時会費収入	110,000	100,000	−10,000	総会・忘年会他
本部補助収入	120,000	120,000	0	会報発送補助
広告料収入	140,000	130,000	−10,000	会報名刺広告料
寄付金収入	20,000	10,000	−10,000	有志からの収入
受取利息	80	100	20	郵貯銀行利息
雑収入	10,000	5,000	−5,000	科目外集入金
小計	700,080	665,100	−34,980	
前期繰越金	252,417	321,384	68,967	現金,郵貯
合計	952,497	986,484	33,987	

≪支出の部≫

科目	26年予算	27年予算	増減	摘要
臨時会費支出	140,000	150,000	10,000	新年会、忘年会他
会議費	10,000	10,000	0	役員会議費用
旅費交通費	10,000	10,000	0	
事務消耗品費	10,000	10,000	0	
通信費	15,000	15,000	0	総会・忘年会他
印刷・発送費	420,000	430,000	10,000	会報印刷封入費
事務所移転費	30,000	0	−30,000	
諸雑費	10,000	30,000	20,000	活動補助、予備費
小計	645,000	655,000	10,000	
次期繰越金	307,497	331,484	23,987	
合計	952,497	986,484	33,987	

通信教育部・本部　平成27年度総会スケッチ

平成27年度通信教育部校友会・第44回定期総会は去る5月23日、日本大学桜門会館において開催された。総会前の全国三役会、44回定期総会、懇親会の様子をスケッチしました。都合でご出席できなかった方も来年度の総会は平成28年5月28日に開催の予定です。ぜひご参加戴き校友の皆様と旧交を温めて下さい。お待ちしています。

ブロック会議

ブロック会議

全国総会

白戸通信教育部校友会会長

加藤直人日本大学副学長

福田弥夫通信教育部長

会場スナップ

平成27年度関東ブロック総会・埼玉県大会概要決まる

9850 形式蒸気機関車

鉄道模型ジオラマ

本年度の関東ブロック総会は、埼玉県支部（鎌子健支部長）担当で、その大会概要が発表さました。当支部からも多くの支部員や、鉄ちゃん・鉄子の皆さまのご参加をお待ちしています。

開 催 日：平成27年11月７日(土)～8日(日)
開催場所：**「ホテルブリランテ武蔵野」**
埼玉県さいたま市中央区新都心2-2 ☎ 048-601-5570
動員目標：45名
開催内容：●【第1日目】11月7日
・ブロック役員会　13:00～14:00
・受　　付　　14:00～14:30
・総会及び講演会　14:30～17:30
（講師は参議院議員『こうだ邦子』氏を予定している）
・懇 親 会　　18:30～21:00

ホテルブリランテ武蔵野

●【第2日目】11月8日・9:15～12:00頃
大宮市の鉄道博物館見学後、現地解散
●**参 加 費**：下記４コースを準備しました。
Ａコース…（総会+写真+懇親会+宿泊+朝食+博物館見学）……19,500円
Ｂコース…（総会+写真+懇親会+宿泊+朝食）…18,500円
Ｃコース…（総会+写真+懇親会）……12,500円
Ｄコース…（総会+写真）…… 3,500円
●**交通**：**JRの場合**：埼玉新都心駅　徒歩5分
北与野駅　徒歩6分
車の場合：首都高速大宮線・新都心出口　車1分
●**参加申込み**：女性は川熊さん（090-6164-4251）
男性は金子（080-5032-1467）へ申し込んでください。

平成27年度 全国ブロック総会・開催日程決まる

今年も全国各地で地域の特色を演出したユニークなブロック総会が開かれます。ご自身の出身地、奥さまやご主人との思い出の場所、昔の恋人と出あった甘酸っぱい想い出の地、同じ机を並べた学友との再会。この際各地の総会に参加して、所属支部以外の全国の校友と親しんでみてはいかがですか。思わぬ出会いがあると思います。各地の校友はきっと私たち関東ブロックの校友を心から歓待してくれることと思います。詳細は事務局までお問い合わせください。

《開催予定日・主催支部》

●四国ブロック総会	愛媛県支部主催	平成27年９月６日	●東北ブロック総会	山形県支部主催	平成27年10月17日
●近畿ブロック総会	京都府支部主催	平成27年９月19日	●東海ブロック総会	岐阜県支部主催	平成27年10月17日
●北信越ブロック総会	新潟県支部主催	平成27年９月26日	●九州ブロック総会	佐賀県支部主催	平成27年11月31日
●中国ブロック総会	広島県支部主催	平成27年９月26日	●関東ブロック総会	埼玉県支部主催	生成27年11月７日

編 集 後 記

私が物心ついたときには既に戦争が始まっていた。食べ物がないのは当たり前、イモと豆が主食だった。まさに「敗戦少年時代」を過ごしてきたものだ。それから早や70年、当時、原爆の落ちた広島・長崎には「今後20年は間草木も生えない」と言われた。それから２～３年で広島の地に雑草が生えてきたときは皆大喜びで、新聞に大きく取り上げられたことを思い出す。

諸説はあるが太平洋戦争では兵士230万人、さらに非戦闘員の民間人を加えると300万人を超える人々が命を落としたと言われている。今日のわれわれが平和を享受することが出来ているのは、私たちの父や母、犠牲になった多くの人々が必死になって祖国を守ってくれたおかげだ。70年間の平和は大きな犠牲の上に築きあげられていることを私たちは忘れるわけにはいかない。今回の『リレー随想』では、内藤さんの戦中・戦後の混乱期に勉学に取り組む厳しさ、辛さの中から明るく懸命に生きたきたことを『学ぶこと、生きること』の中で、熱く語っていただいている。また、特集では、本学の学徒出陣式の様子（日大新聞より転載）の写真を掲載した。みんなでもう一度平和について考えてみよう。ご意見をお待ちしています。(E)